2022年
11月30日
発行

P.クラウス先生とP.シムキン先生の名著
『WHEN SURVIVORS GIVE BIRTH』
待望の翻訳書

本書は、子どもの頃に性暴力を受けた方の妊娠・出産時のサポートについて書かれた洋書「WHEN SURVIVORS GIVE BIRTH」の翻訳書です。
原著は2004年に刊行され、版を重ね、20年近くも絶版になることなく読み継がれ、2021年に改訂版が電子書籍で刊行されました。
妊娠・出産期に女性のそばにいる医療者、支援者、専門職向けに書かれており、複数の事例とともに、妊娠・出産期の関わり方、ケアの考え方を伝えています。多くの反響を与え、世界中にワークショップや研修が広がって、支援者養成にも使用されています。
――本書をきっかけに議論が広がったら幸いです。

第1章
子どもの頃の性的虐待と、
社会での受け止められ方

第2章
子どもへの性的虐待と
成人後への影響

第3章
子どもの頃の性的虐待が
妊娠に与える影響

第4章
子どもの頃に性的虐待を受けた
女性の出産について

第5章
産後

第6章
出産する人と
医師・助産師との関係

第7章
コミュニケーションスキル

第8章
マタニティケアの専門家
バースエデュケーター、ドゥーラ、
母乳育児支援者、マッサージセラピスト

第9章
出産時の不安を防ぎ、それに対
処するための自助の方法

第 10 章
出産カウンセリング

第 11 章
心理療法

第 12 章
性的虐待を受けた経験があるク
ライエントへの内診などの
実施について

第 13 章
妊産婦の満足度を高め、
適切なケアを行うための
看護ケアプランの作成

第 14 章
扉を開く：
インフォームド・ディシジョン・
メイキングとアドボカシー

第 15 章
あとがき

★コピーして使える評価シート等も
巻末資料として掲載。

性暴力サバイバーが出産するとき

子どもの頃に性的虐待を受けた女性が
出産するときに起こることの理解と癒し

WHEN SURVIVORS GIVE BIRTH

著者 フィリス・クラウス(Phyllis Klaus)
LMFT, LMSW(マリッジ・ファミリー・セラピスト／ソーシャルワーカー)
ペニー・シムキン(Penny Simkin)
PT(理学療法士)

監訳 白井 千晶
訳 性暴力サバイバーの
妊娠出産ケア・プロジェクトチーム

COUPON 300円OFF!!
WSGB 翻訳書予約キャンペーン
お申込み画面で
クーポンコードをご入力ください。
クーポンコード
WSGB1130
有効期限：2022/12/31まで

性暴力サバイバーが出産するとき
子どもの頃に性的虐待を受けた女性が出産するときに起こることの理解と癒し
発行元：株式会社ともあ／B5判／本文1色／352P／ISBN 978-4-910393-68-1 定価 5,500円 (税10%)

性暴力サバイバーが出産するとき

「これまで手がかりがなかったところに光が差した」。
冒頭からすぐに直感し、今まで言葉にならなかった思いに当てはまる言葉を手繰り寄せるように読み進めた。
生殖のためだけの能力を判別される対象としての無力感も蘇った。
内在する力を引き出す余地もなく、命を宿し生み出すための場所で心を置き去りにするたびに、
たくさんの傷を抱えてきたのだと改めて認識することとなった。
尊厳とはパーツではなく、ひと連なりの皮ふ、身体の隅々にまで行き渡るもの。
誰かに大切に触れられ、ケアされる体験がこれまでの孤独や傷を癒やし、生きる勇気となることもある。
本書が誰かの扉を開く一歩に、先を照らす希望になるように願っています。

（A.N. さん）

この本を読むと「このような特殊なトピックについてわざわざ学ばなくても、常識をもって対応していれば大丈夫」と考えるのは実は間違いなのだということに気づかされます。そして、当たり前に行われているケア（例えば、内診時の「力を抜いて」などの言葉かけ、母乳育児を促すこと）さえも、相手の背景によってはフラッシュバックのトリガーになりうることに驚き、不安になります。性的虐待経験のある女性が抱える問題は、ごまかせず、見て見ぬふりもできないことがよくわかり、一人ひとりと丁寧にかかわらなければ、専門知識を備えなければ、という気持ちになると思います。

福澤 利江子さん ｜ 筑波大学、助産師、
「ドゥーラ研究室」運営

私は子どもの頃に性的被害にあった彼女たちが、この先、痛みを抱えながら生きていけるのか、その立ち直りと成長のために、周りはどうサポートしていけばよいのかを考えてきました。この本は、女性たちがやがて自ら命を生み出そうとする時、どんなことが起きるか、そして周囲はどうケアをしていけばよいのかが網羅されています。

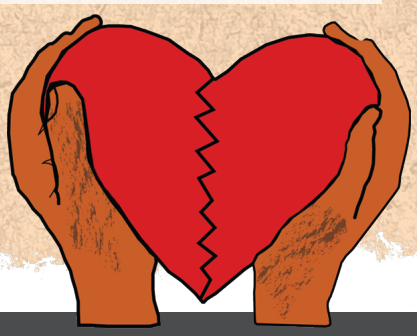
河野 美代子さん ｜ 産婦人科医、
『SEX & our BODY 10代の性とからだの常識』著者

日本においても４人に１人以上の女性が性暴力や性的虐待を受けていることは未だあまり知られていない。圧倒的な臨床量―ケアする人とされる人の相互交流までを含む豊富な事例記述を基盤に、体験的に重要な情報と対処法を伝え、世代間伝達の要である女性の出産体験をより幸福にすることに寄与するトラウマインフォームドアプローチの手本のような本。妊娠出産を控えたサバイバーとその人を支援するヘルスケアプロバイダー、産婦人科医、助産師、保健師、精神科医、心理士／師に推薦する。

白川 美也子さん｜精神科医、臨床心理士、公認心理師
『赤ずきんとオオカミのトラウマ・ケア』著者

私は助産師として働く中で、お産の際に突如全身を硬直する方、最初から出産終了まで恐怖心が持続する方、絶対にお産の時に足を開きたくない方に出会ったことがありました。本書で提唱されている内容は、まさに「サバイバーにとってよいケアはすべての人にとってよいケアである」（バンクーバーの女性団体の言葉）を実感させられるものです。

加納 尚美さん ｜ 茨城県立医療大学、助産師
『フォレンジック看護 性暴力被害者支援の基本から実践まで』編者



性暴力サバイバーが出産するとき
子どもの頃に性的虐待を受けた女性が出産するときに起こることの理解と癒し
発行元：株式会社ともあ／B5判／本文1色／352P／ISBN 978-4-910393-68-1 定価 5,500円（税10%）

お申し込みはこちら